

アイコクアルファ 26年ぶりに新工場

需要が増えている「ラックハンド」



稲沢市祖父江町に新工場を建設する(イメージ)

40億円投資 稲沢市祖父江町に

自動車部品メーカーのアイコクアルファ(本社稲沢市、榎田克史社長)は、稲沢市祖父江町に新工場を建設する。約40億円を投資し、2026年6月に稼働する。荷物の移動作業を支援するハンドクレーン「ラックハンド」の生産を現在の一宮工場(一宮市)から新工場に移管する。ラックハンドは自動車分野向けを中心に需要が伸びており、生産体制を拡充して対応する。(勝又佑記)

新工場の建設は00年に完成した山崎工場(稲沢市)以来、26年ぶり。建設予定地の稲沢市祖父江町は同社創業の地で、同社にとって思い入れがある。新工場を含む全3工場を祖父江町内に構えることになり、地域密着の姿勢をより鮮明にする。

新工場の建設地は稲沢市祖父江町下柵225で、山崎工場の近隣地になる。敷地面積は約2万5千平方メートル。工場は鉄骨造り、地上2階建て。延べ床面積は約8500平方メートル、一宮工場に比べ約3割増になる。一宮工場で働いている従業員



榎田克史社長

約160人の大半が新工場に移る。ラックハンドは、完成車の組立ラインで利用が拡大している。シートや運転席正面にある内装品のインストルメントパネル、ドアの取り付けなどに使われ、国内だけでなく、日系メーカーの海外工場でも採用が進んでいる。顧客からは作業員が重量物を持ち上げる負担を軽減するほか、省人化につながる効果が評価されている。自動車に加え化学や医薬品、食料分野で潜在的な需

要を見込んでいる。さらに海外では米シカゴ市に営業担当者2人が常駐し、電池分野などへの提案を進めている。新工場建設により今後の受注増に備える。現在の一宮工場は築50年近くが経過し、老朽化していた。跡地の活用は未定。同社は1943年に創立した。23年度の売上高は約287億円。